

東白川村 美しい村づくり 委員会

第六回

- 場所：ふれあいサロン
- 時期：平成 28 年 8 月 30 日 19:00~21:00
- 参加者：委員 7 名 ゲスト 5 名 行政 5 名

▼全 5 回を簡単にまとめました。

[第一回] 顔合わせ

「日本で最も美しい村連合」の理念に基づいたむらづくり、官民協働のむらづくりが主な二本柱として活動していきたいという村長からの願いがありました。委員会全体としては「村に貢献したい」という想いが共通していました。

[第二回] 委員会の理念について

「村に誇りを持つ」、「ヒトづくり」というキーワードが 2 つ挙がりました。

[第三回] 活動に関する意見出し

「次世代へ伝える」という新しいキーワードが挙がり、3つのキーワードが委員会のテーマや理念に繋がってくるのではないかとりました。

[第四回] ゲストを迎え、グループディスカッション

3つのキーワードを基本に活動内容を考え、教育の面で「人材バンク」を設立することが委員会の活動目標となりました。

[第五回] 「人材バンク」を設立するために

人材バンクの設立にむけて 7W2H を基本になにをすべきか話し合いました。まずは委員全員が人材バンクへの学びの部分の部分を深めていくことが必要だとなりま

した。

【振り返りに対する個人発表】

今までの振り返りを通して、美しい村づくり委員会で「今後何をやっていきたいか」、「委員会への想い」など、改めて一人ずつ自由な意見を発表しました。

〈意見〉

- ◇色んな世代の人、地域外の人達と一緒に各集落を散策し、見直したい。
 - ①知りたいことや教えてくれる人が見つかる
 - ②世代間交流にも繋がる
 - ③人材バンクの骨組みともなる

- ◇東白川村出身の若者や U ターン予備軍、村外で働く人達との意見交換会をしたい。
 - なにがネックで帰ってこないのか、など聞きたい

- ◇村内のどこに何があるのかということや、神道について学びたい。

- ◇まずは小さなことでも行動に移していきたい。

- ◇料理や行事など、昔のことをよく知っている人達を掘り起こしていきたい。

- ◇慌てずにじっくりゆっくりと時間をかけて活動し、委員会を継続させていきたい。

- ◇“遊びを忘れた世代へ”という地域行事や地域にまつわるカルタなどが載っている本（まだ未完成）を完成させ、全集落に配布したい。

- ◇線でも面でもなく点を作ることが大事で、ここで暮らしていける学びの場を作りたい。

- ◇小さな祭りゴトのような様々な活動ができ、皆が力を注ぎ込める場所作りが

大事だと思う。

- ◇美しいだけでなく村民が気持ちを込めていける場所作りをしていきたい。
- ◇人間が手を加えたことによって、自然の生態系が壊れてしまった場所を直していく作業をしたい。 ※参考資料：「大地の再生講座」
- ◇不安を改善した先の楽しいイメージを具体化していきたい。
- ◇ワークショップや映画の上映会、視察など小さな祭りゴトを行う新しい場所づくりをしたい。
- ◇住民も知らない村の魅力を探したい。
- ◇観光資源が少ない村だけど、「神の村」というのはとても魅力的だと思う。
- ◇昨年、商工会青年部で企画をした禊をカタチにしていきたい。
- ◇東白川村に移住された人達が魅力に思ったことや移住を決めたポイントなどを掘り下げ、単発的なイベントではなく長い目で見た本格的な移住プロジェクトをやっていきたい。

【意見交換】

- ▼子供たちにとっても大切な、食育の面で盛り上げていってはどうか？
 - ・学校給食に取り入れていけるようなことをしたい。
 - ・現在、一緒に学校給食を行っている中津川では、農薬を多く使っているが虫や傷のついてない見た目の良いものが使用されているのが現状。なにが安全でなにを求められているのかがはっきりしていない。
 - ・生産者としては農薬をなるべく使わず、安全なものを提供してほしい思いがある。
 - ・有機野菜で学校給食を行っている地域はとて少ないため、もし東白川村で実現すればかなり PR できる。

- まずは保育園の給食を村で担当するところからであれば、実現可能に近い。
- ・ 移住者にとっても有機野菜の栽培は移住に対してプラスの情報になる。
 - ・ 農業に限らず自然に特化したもので地域をアピールするために発信していけたら良い。
 - ・ この地域で暮らしていけるような高校（学ぶ場所）があれば良い。

▼まとめ

具体的に活動に移せることを考えると、第一段階としてまず地域を散策し、見直していくとからはじめることとなりました。

